



桂川っ子



「教育目標の具現化にむけて」

桂川中学校校長 安永保之

NHK大河ドラマ「龍馬伝」が人気を得ています。このドラマは、「立志」ということが中心にあり、将来が見えにくい今の世の中だから、感銘を受けるのではないのでしょうか。今の子どもたちが自らの将来をたくましく生きていくためには、この「立志」は欠かすことのできないものです。志を立てるには、まず土台です。基礎学力・体力・道徳性ですが、これを身につけることが大切です。でも、誰でもが自然に身につけることはできません。身につけたものを繰り返し練習し、体に染み込ませることで可能となります。

朝の挨拶運動に生徒会が取り組んでいます。前を通る生徒の声は小さく、恥ずかしいのでしょうか。これからは学級ごとに挨拶運動に参加し、練習を通して、「豊かな心を持ち、自らの将来をたくましく生きていくことができる生徒」に近づいていくことを願っています。

あいさつと笑顔のあふれるまちづくり

桂川町教育委員会 教育長 穂坂和義

「桂川町の子どもは桂川町みんな育てる」を合言葉にスタートした『生き生き桂川っ子』総合推進事業（以下、推進事業）も今年で三年目を迎えました。

去る6月21日に本年度最初の協議会が開かれ、今年は「あいさつ運動」に取り組んでいくことが確認されました。このことは、昨年末に社会教育委員会から教育委員会に意見として出されていた事案の一つでもありました。

さっそく、その第一回目の取り組みが7月6日に行われ、桂川小、東小の児童代表は桂川中学校へ。桂川中学校の生徒会代表は桂川小、東小へとお互いに訪問しあい、登校してくる児童や生徒、先生たちに「おはようございます！」と元気にあいさつの声かけ運動を行いました。また、地域の方々や先生、推進事業協力団体の方々にも参加いただき、校門付近の各所であいさつ運動にご協力いただきました。

あいさつ運動については、これまでも推進事業やPTA活動の一つとして実施さ

れてきた経緯もあります。しかし、今回は一部の取り組みとして行うのではなく、町民運動として広げて行こうというところがこれまでと違うところです。本年度の「子育てを考える地域懇談会」においても中心議題として取り上げられました。

運動というと何か特別なことのように思われるかもしれませんが、日常にお互いに声かけをして「あいさつと笑顔のあふれる桂川町にしていきたいでしょう」というのがこの運動の趣旨です。

ぜひとも、すべての町民の皆さまに、この「あいさつ運動」への参加と積極的な取り組みをお願いしたいと思います。



▲ 桂川中学校の正門入り口で登校してくる中学生に「おはようございます！」とあいさつをする桂川小・東小の児童たち。